平成２年度

米沢市立上杉博物館年報

Vol. 3

刊行にあたって

平成２年４月、本市教育委員会に「文化課」が新設され、当博物館を所管することとなり、さらに、同年３月末に設立された「財団法人　米沢上杉文化振興財団」に館の管理業務を委託しました。

その記念すべき初年度の事業として「上杉家の遺宝展」をはじめ、６件の特別展を開催しました。

「上杉家の遺宝展」では、平成元年に上杉家から寄贈された重要文化財「洛中洛外図」「上杉家文書」など、上杉家に伝わる貴重な資料を公開しました。特に、会期初日から３日間を入館無料とし、より多くの方々に観覧いただけるよう企画しました。

また、この年の干支「馬」にちなみ、絵馬や馬具など馬に関する広範な資料を展示した「馬展」や、県内作家シリーズとして、本市出身の本間国生氏の「水墨画展」、さらに、仙台市在住の山谷文仁氏から平成元年に寄贈された東北でも有数といわれる「昆虫標本」から、人間と歴史とのかかわりを主題とした「昆虫展」を開催しました。今回で20回を数える「日本刀展」では、日本刀の黄金時代といわれる鎌倉時代の備前名刀を紹介しました。

今後も、当館に寄せる皆様の期待に応えるべく、研鑽を積み、鋭意努力して参る所存ですので、関係各位のなお一層のご指導、ご教示を賜りますようお願い申し上げます。

平成４年３月

米沢市教育委員会

教育長　小　口　　亘

目　次

○館の概要 …… 1
・目的と沿革
・施　　設
・博物館日誌
○平成２年度事業 …… 3
・展　示　(1)上杉家の遺宝展 …… 3
(2)本間国生水墨展 …… 6
(3)馬　　展 …… 8
－戦い・信仰・農耕と馬－
(4)山谷コレクション昆虫展 …… 11
－歴史の語りべたち－
(5)日本刀展 …… 13
－鎌倉時代の備前名刀展－
(6)新収蔵品展 …… 16
(7)館蔵品展 …… 18
・収集　２年度受入資料 …… 19
収蔵資料件数 …… 22
○組織・名簿 …… 23
・市立上杉博物館協議会 …… 23
・財団法人米沢上杉文化振興財団 …… 24
・米沢市立上杉博物館 …… 25

館の概要

目的と沿革

米沢市立上杉博物館は、その前身として米沢郷土館・市立米沢郷土博物館・市立米沢博物館があった。これらは南置賜郡役所や市立図書館に併設されていたが、昭和42年、市民の教養のの向上と学芸および文化の発展を図るため、博物館施設として現在の位置に独立した館が建てられ名も米沢市立上杉博物館となって、そのあゆみを始めた。

当館では、価値ある資料を収集・保管し調査研究に基づく展示を行って教育的配慮の下に一般の利用に供すること、人々の教養・調査研究・レクリエーション等に資するために必要な事業を行うこと、資料に関する調査研究を行うことを目的としている。

昭和５年10月	元南置賜郡役所に米沢郷土館設置。
昭和13年４月	市政50周年記念として米沢市に移管され市立図書館に併設。
昭和27年９月	博物館相当施設として登録、市立米沢郷土博物館と称す。
昭和30年９月	市立米沢図書館に移転（旧市立米沢図書館）。
昭和37年７月	博物館法による設置条例制定、市立米沢博物館と改称。
昭和41年11月	丸ノ内一丁目４番13号に、市立米沢博物館新館完成。
昭和42年４月	博物館法による設置条例制定、米沢市立上杉博物館と改称。
昭和42年６月	博物館施設として登録。
昭和43年５月	社団法人上杉博物館協会設立。
平成２年３月	財団法人米沢上杉文化振興財団設立。

施　　設

総　面　積	471.0 ㎡
陳　列　室	129.6 ㎡
展示室㈱ホール	126.6 ㎡
収　蔵　庫	51.84㎡
研　究　室	32.4 ㎡
事　務　室	9.72㎡
映　写　室	4.86㎡

平成２年度　博物館日誌

Ｈ２．４．１　二宮幸雄館長、梅津幸保職員、金子正廣職員、山口恵美子職員、転出により後任に小関薫館長、木村琢美職員、船山弘行職員発令
４．１　㈶米沢上杉文化振興財団、館の管理業務を受託
４．４　㈶米沢上杉文化振興財団事務局長長尾和彦、村田元生職員、菊地米子職員辞令交付
４．５　㈶米沢上杉文化振興財団の事業打合わせ、文化課にて
４．20　特別展「上杉家の遺宝展」開催　５月６日まで
４．25　ＮＨＫ来館、県内市長会視察
４．30　上杉隆憲名誉会長来館
５．１　㈶米沢上杉文化振興財団、第１回評議員会、設立祝賀会
５．２　東海市細井氏来館
５．７　３市５町助役収入役会視察
５．22　特別展「本間国生水墨画展」開催　６月13日まで
６．13　与板町教育委員会へ資料貸出し　4/2返還
内訳　直江兼続書状２点（軸物）と複製品２点
６．21　特別展「馬展」開催　７月11日まで
７．１　ＮＨＫ教育テレビ　洛中洛外図屏風撮影　７月２日まで
７．３　米沢女子高へ昆虫標本100ケース貸出し　7/12返還
７．11　座の文化伝承館へ沢口静山筆２幅貸出し　狩野探幽筆三幅返還
７．14　小山市立博物館　佐々間氏来館
７．18　東海市社会教育課より貸出し資料４点返還
内訳　細井平洲関係文書、友于堂扁額、興譲館之図
７．20　特別展「昆虫展」開催　８月26日まで
７．22　山谷文仁氏来館　与板町史跡保存会視察
８．29　川西町へ昆虫展時の借用資料返還
９．４　市会計課　備品検査
９．６　㈶日本美術刀剣保存協会　辻本講師来館
９．８　特別展「第20回　日本刀展」開催　９月30日まで
９．27　小田原市市議会議員視察
10．２　講談社「洛中洛外図屏風」写真撮影　10月５日まで
10．10　特別展「新収蔵品展」開催　11月11日まで
上杉孝久氏来館
10．16　栗林氏寄託甲冑（素懸浅葱糸威五枚胴具足）、最上義光歴史館へ貸出し
10．31　文化庁　宮島調査官、県文化課柴田主事「洛中洛外図屏風」視察
11．３　「文化の日」にちなみ入館無料公開
11．16　平成３年度　展示事業協議
11．22　フジテレビ（ＹＴＳ）上杉鷹山関係資料写真撮影
11．26　㈶米沢上杉文化振興財団評議員会、理事会開催
12．18　展示室、事務室改修工事開始　２月５日まで
12．26　沖縄の奨学生館内見学
Ｈ３．２．１　日本美術刀剣保存協会　米沢支部総会
２．12　平成３年度事業計画予算協議
展示室、事務室改修工事完了検査
２．21　「洛中洛外図」図録　第２版印刷
３．16　市立上杉博物館資料収集審査会
３．26　㈶米沢上杉文化振興財団評議員会
３．27　㈶米沢上杉文化振興財団理事会

平成２年度事業

展　　示

(1)　上杉家の遺宝展

平成元年、上杉家御当主の上杉隆憲氏から重要文化財「紙本金地著色洛中洛外図」「上杉家文書」など４点が市に寄贈され、市では貴重な文化財を管理保存するため、財団法人米沢上杉文化振興財団を設立した。

平成２年度第１回目の特別展「上杉家の遺宝展」は、これら寄贈を受けた財宝を広く市民に公開すべく企画したものである。

展示品の中で、最も注目をあびた「洛中洛外図」は狩野永徳の若い頃の作といわれ、織田信長が上杉謙信に贈ったものとされている。六曲一双の屏風で、京の都の232のモチーフが約2500人の人物とともに、細密でありながら生き生きと描き出されている。歴史的、民俗学的にも貴重な資料であり、屏風の前は賑わいを見せていた。

「上杉家文書」は米沢藩主上杉家に伝来する武家文書であり、全部で1752通からなっている。この中から徳川家康や織田信長から贈られた書状など20通を選び出し、また上杉景勝愛刀の「長船長光」、狩野永徳作と伝えられる「絵本著色厩図」なども展示した。上杉家ゆかりの太刀や絵図、伊達政宗の父、輝宗の真筆など、なじみのある名前も多いこともあって市民の関心も高く、多くの方に楽しんでいただけたと思う。

初日の開館時に開催式典を催し、展示室ではＮＨＫ製作の「日本の美・洛中洛外図－都大路細見－」のビデオを放映した。

会　　期　　平成２年４月20日～５月６日
主　　催　　米沢市立上杉博物館
　　財団法人米沢上杉文化振興財団
入館者数　　一般　5,266人、学生　348人
　　小中学生　888人
　　団体学生　300人、
　　会員その他　1,796人
　　計　8,598人

「重要文化財　上杉本　洛中洛外図屏風」図録作成・販売

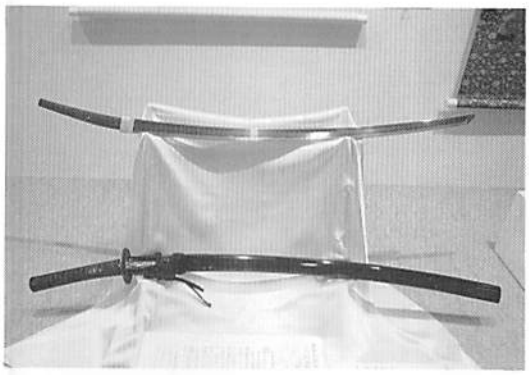
ポ　ス　タ　ー

出　品　目　録

紙本金地著色洛中洛外図（六曲屏風一双）	伝狩野永徳筆	重要文化財	米沢市蔵
太刀　銘　長船長光　附打刀拵		重要美術品	米沢市蔵
紙本著色厩図（六曲屏風一双）		県指定有形文化財 重要美術品	米沢市蔵
上杉家文書		重要文化財	米沢市蔵
室町将軍家（足利義輝）女房消息	天文19年		
細川晴元書状	天文21年		
近衛前嗣（前久）書状	元録２年		
〃	〃		
室町将軍家（足利義輝）御内書	〃		
〃	〃		
大館晴光副状	〃		
上杉輝虎書状	永録５年		
伊達輝宗書状	永録６年		
織田信長書状	永録７年		
〃	〃		
上杉輝虎願書	永録９年		
北条氏康同氏政連署状	永録12年		
室町将軍家（足利義昭）御内書	〃		
徳川家康書状	天正元年		
毛利輝元書状	天正５年		
謙信公年譜			
上杉輝虎署名消息手本（複製）	永録11年		
上杉家家中名字盡（複製）	天正５年		
伊呂波盡手本（複製）	年月日未詳		

紙本金地著色洛中洛外図屏風の前で　初日の賑い

大袖鎧紺色糸威二枚胴具足　伝上杉宗房所用		米沢市立上杉博物館寄託
漆器　耳盥		米沢市立上杉博物館寄託
朱塗漆器　飯櫃・湯樋・銚子・酒次		個人蔵
火縄銃10匁筒（攝州住□□屋小兵衛作）		米沢市立上杉博物館蔵
弾丸作り道具		米沢市立上杉博物館蔵
上杉謙信書「第一義」（複製）		米沢市立上杉博物館蔵
上杉謙信座像	金子　直裕　作	米沢市立上杉博物館蔵
上杉家御年譜（米沢温故会発行　活字本）		米沢市立上杉博物館蔵
山本勘介晴行入道道鬼斎討死の図	一勇斎国芳　筆	個人蔵
川中島大合戦	一声斎芳靄　筆	個人蔵
上杉武田対陣矢合之図	玉蘭斎貞秀　筆	個人蔵
永禄四年九月川中島大合戦	一勇斎国芳　筆	米沢市立南部小学校蔵
上杉輝虎入道謙信と家臣	一陽斎豊国　筆	米沢市立南部小学校蔵
川中島合戦謙信車懸り	一勇斎国芳　筆	米沢市立南部小学校蔵
川中島大合戦	一魁斎芳年　筆	米沢市立南部小学校蔵
謙信信玄一騎打の図	狩野　文信　筆	米沢市立上杉博物館蔵
挟み箱		吉池　貢氏蔵
拓本　「愛徳」	上杉　謙信　筆	個人蔵
特別重要刀剣　太刀　銘　助次		個人蔵
重要刀剣　脇指　無銘　中島来　(附)黒地目地塗腰刻脇指拵（六代安親一作金具）		個人蔵
主図合結記		栗林金郎氏蔵
軍　螺		米沢市立上杉博物館寄託
空　穂		米沢市立上杉博物館蔵
上杉謙信・武田信玄屏風二曲一双		米沢市立上杉博物館蔵



太刀　銘　長船長光　重要美術品

(2) 本間国生水墨展

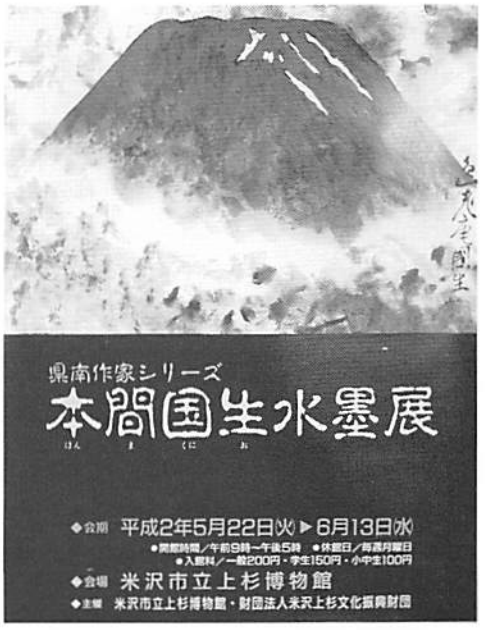
県南作家シリーズとして、今回は郷土出身の本間国生の水墨画展を企画した。

本間画伯は1889年（明治22年）に米沢市に生まれ、84歳でその生涯を閉じたが、死の直前、昭和48年に彼の画業の真髄といえる「水墨日本風物抄」を当博物館に寄贈された。今回の特別展には、そこに収められた61件62点の原画と、画伯の兄であり、明治文学の生き字引と称された文学博士本間久雄書の「水墨日本風物抄題辞」を展示した。

画伯は当時、フランス遊学から帰国したばかりの有島生馬に師事して洋画を学び、白馬会に所属して岸田劉生、木村荘八らと共に大正画壇にエポックをつくったフューザン会の有力メンバーとして活躍、その後一時東京日日新聞社の美術記者として筆をペンに持ち替えたこともあったが、大正８年突然、洋画から日本画に転じ、「破墨山水」の雪舟を原点とする水墨画に専念、流派にとらわれない画家として、きびしい道を歩き続けた。日中戦争中20数回にわたり、朝鮮、満州（中国北東部）を旅し、各地の景観をスケッチ、画集「朝鮮画観」（昭和17年）「満州画観」（同19年）を刊行。戦後は画号を逸老庵（いつろうあん）と改め、国内の景勝地を行脚して画集「水墨日本風物抄」（昭和40年）を完成した。画伯は水墨画の新しい様式を摸索し、独特な手法によって実に新鮮でありながら奥深い技法を発見し、他の追髄を許さないものとして高く評価された。また洋画家出身だけに自然観照の正確さ、人物デッサンの確かさに至っては伝統的画人は遠く及ばないとの評も得ている。

会　　期	平成２年５月22日～６月13日
主　　催	米沢市立上杉博物館 財団法人米沢上杉文化振興財団
入館者数	一般　760人、学生　23人 小中学生　63人、合計　846人

「巌　島」



ポ　ス　タ　ー

出　品　目　録　　・全作品　米沢市立上杉博物館蔵

千古の雪	（額装）
二重橋と夏雲	（額装）
雨後の山	（軸装）
月寒の朝	（額装）
吉野の春	（軸装）
朝　　霧	（軸装）
関門海峡	（軸装）
大阪城大手	（額装）
清水寺	（額装）
長良川夜雨	（額装）
雪の日	（額装）
摩周湖	（額装）
雪の松島	（軸装）
朝　　霜	（額装）
鵜のいる男鹿半島	（軸装）
冬　　山	（額装）
洞爺湖	（額装）
日向五ケ瀬川	（軸装）
上野夜桜	（軸装）
福良村と磐梯	（軸装）
巌　　島	（額装）
雨の門司港	（額装）
会津沼沢沼	（額装）
立山雪渓	（額装）
層雲峡羽衣の瀧	（軸装）
大雪山旭岳	（額装）
笹野こけし	（軸装）
高野の朝	（額装）
伊勢の海女	（軸装）
浅間山	（軸装）
越後の水田	（額装）
阿　　蘇	（軸装）
耶馬渓羅漢寺	（軸装）
だんだん畑宇和島にて	（額装）
北の海	（額装）
麦を焼く佐賀所見	（軸装）
富士太鼓（能学）	（軸装）
勧進帳（歌舞伎）	（軸装）
銀閣浮石	（額装）
若草山	（額装）
九十九島漁火	（額装）
瀞八丁	（軸装）
鳴　　門	（額装）
霧　　島	（軸装）
足摺岬	（額装）
那智と華厳　双幅	（軸装）
函館トラピスト	（額装）
高千穂天の真名井	（軸装）
多摩川の朝	（軸装）
福島の桃	（額装）
玉川地下仏殿	（額装）
鳥取砂丘	（額装）
道後温泉	（軸装）
五月雨	（軸装）
高千穂峡七ツ瀧	（軸装）
十和田湖	（額装）
鎌倉大仏	（軸装）
瀬戸内海	（軸装）
鴨川友禅さらし	（軸装）
眼鏡橋長崎にて	（額装）
蜆採る舟琵琶湖所見	（軸装）

(3) 馬展　－戦い・信仰・農耕と馬－

常に人々の生活に関ってきた馬をとり上げ、どんな所で、どのように関ってきたかをみるため「馬展」を開催した。

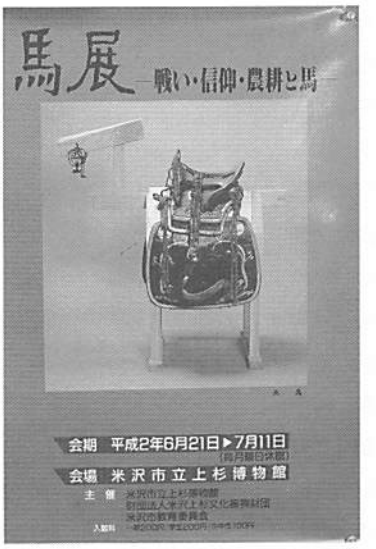
馬――同意の午は12支の７番目の干支であり、月では旧暦５月（新暦６月）、方位では正南方、季節は夏、時刻（午の刻）は正午、陰陽では陽、火性、色は赤という。

先人たちにとって、馬はいつの時代にも重要な役目を負ってきた。戦いになくてはならぬ馬、農業を画期的に変えた馬、古代より神聖なる信仰の対象であった馬。現代では民芸品や置物、壁掛けなどコレクションとしても愛好されている馬。ことわざや故事にも馬が登場する。

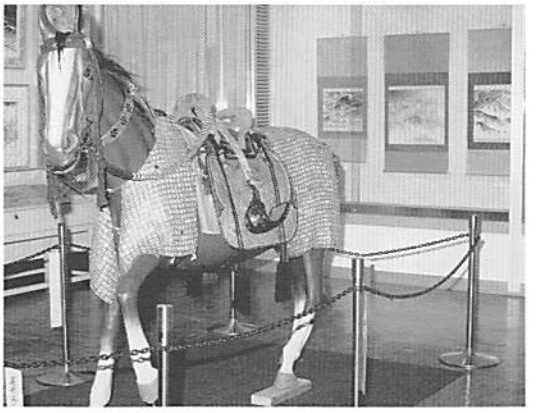
展示は「戦いと馬」「信仰と馬」「農耕と馬」「ことばと馬」「馬コレクション」の５つに分け、「ことばと馬」のコーナーでは、『馬鹿』『馬耳東風』『白馬の節会』『厩戸皇子』『丙午』の５つをとり上げ、イラストを添えてわかり易くした。「馬コレクション」の玩具類のコーナーでは、どこで製作されたかを資料配列の基準にした。

会　　期	平成２年６月21日～７月11日
主　　催	米沢市立上杉博物館 財団法人米沢上杉文化振興財団
入館者数	一般 769人、学生 50人 小中生 102人、団体一般 110人 合計 1,031人

図録『馬展』　作成・販売



ポ　ス　タ　ー



出　品　目　録

＜戦いと馬＞

馬具		米沢市立上杉博物館蔵
馬甲		個人蔵
馬具		米沢市立上杉博物館蔵
素懸浅葱糸威五枚胴具足		米沢市立上杉博物館蔵
旗指物馬験等書上面附帳		市立米沢図書館蔵
御城下絵図	文化８年	市立米沢図書館蔵
御厩絵図		市立米沢図書館蔵
馬柄杓		個人蔵
馬楽考		米沢市立上杉博物館蔵
馬道具名所		米沢市立上杉博物館蔵
馬術書		市立米沢図書館蔵

＜信仰と馬＞

絵馬　繋馬図（市指定文化財）		小菅一宮神社蔵
木造勢至菩薩坐像		千眼寺蔵
絵馬　騎馬武者図	文政８酉年３月15日	山神神社蔵
絵馬　騎馬武者図	文化６年己巳３月15日	山神神社蔵
絵馬　駿馬図	承應３年暦甲午９月吉日	白子神社蔵
八幡大神像		常宝院蔵
馬頭観音像		大正寺蔵
絵馬　馬図	明和	小菅一宮神社蔵
絵馬　馬図	享保21年丙辰年４月吉日	小菅一宮神社蔵
絵馬　馬図	享保21年丙辰年４月吉日	小菅一宮神社蔵
絵馬　神馬図	嘉永壬子５年２月吉日	個人蔵
絵馬　馬図	元文２年丁巳９月12日	小菅一宮神社蔵
絵馬　繋馬図	明和５年10月13日	小菅一宮神社蔵

＜農耕と馬＞

草　鞋		㈶農村文化研究所蔵
樏（かんじき）		㈶農村文化研究所蔵
爪切り		㈶農村文化研究所蔵
馬耕機		㈶農村文化研究所蔵
水中砕土機		㈶農村文化研究所蔵
島貫広吉考案砕土器		㈶農村文化研究所蔵
はも・曳鉄		㈶農村文化研究所蔵
荒代馬鍬		㈶農村文化研究所蔵
中代馬鍬		㈶農村文化研究所蔵

荷　鞍		㈶農村文化研究所蔵
改良鞍		㈶農村文化研究所蔵
馬の口籠		㈶農村文化研究所蔵
やせうま		㈶農村文化研究所蔵
鳴り輪		個人蔵
草切機		㈶農村文化研究所蔵
飼葉桶		㈶農村文化研究所蔵
カルチ・ベーター		㈶農村文化研究所蔵
乗馬用一式		㈶農村文化研究所蔵
＜馬コレクション＞		
馬図屏風	南原　　斎　筆	個人蔵
米沢藩大名行列絵巻		個人蔵
相良人形		個人蔵
競馬場厩舎風景	上泉　華陽　筆	上泉治氏蔵
優　駿	上泉　一郎　作	上泉治氏蔵
木彫ハイセイコウ		菊地冨蔵氏蔵
八幡馬		個人蔵
チャグチャグ馬コ		個人蔵
三春駒		個人蔵
馬乗り猿		個人蔵
馬図屏風	上泉　華陽　筆	上泉治氏蔵
白　馬	上泉　華陽　筆	上泉治氏蔵
牧　場	上泉　華陽　筆	菊地冨蔵氏蔵
木　馬	上泉　一郎　作	上泉治氏蔵
群　馬	上泉　一郎　作	上泉治氏蔵
武者人形八幡太郎義家		個人蔵
サドル・拍車・噛み		菊地冨蔵氏蔵
十二支ノ内午	藪崎芳次郎　作	個人蔵
京焼絵馬	山田　紫光　画	個人蔵
神宮皇后		個人蔵
宇治川の戦		個人蔵
豊臣秀吉		個人蔵
馬　図	新　　山　筆	菊地冨蔵氏蔵
太平記之内大津打出濱大合戦之図	一恵斎芳幾　筆	個人蔵
版画　馬頭観音	阿部　紅雲　作	個人蔵
蹄　鉄　他馬の玩具40点余		菊地冨蔵氏蔵

⑷ 山谷コレクション　昆虫展
－歴史の語りべたち－

平成元年７月、山谷文仁氏から本市に、昆虫標本800箱、未整理分を合わせると1,000箱以上にもなる寄贈を受けたが、その標本をもとに受け入れ時に続いて、今回は収蔵元である当博物館で初めての昆虫展である。第一回としては、人間と歴史とのかかわりについて企画し、「歴史の語りべたち」と題して夏休み期間に開催し、盛会であった。

私たちは、古代より小さな虫たちと大きくかかわって暮してきた。中でもカイコは、シルクロードに象徴されるように、東洋と西洋を結びつけたり、小さな島国日本に大きな経済力をもたらしてくれた。

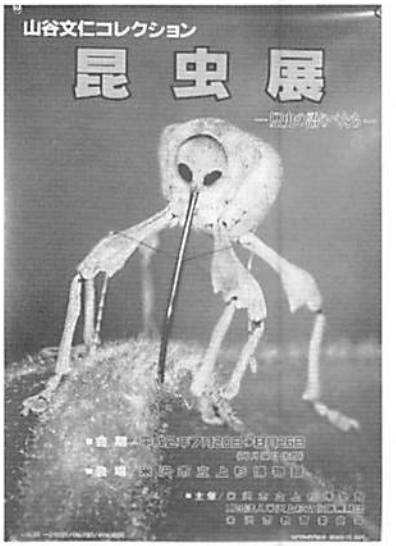
米沢藩が藩再興策の一つとして奨励してきた養蚕などの産業で、カラムシ、ベニバナ、クワ、チャ、ウルシ、コウゾ、ウコギなどが持ちこまれ、植物に生活を委ねる虫たちの住む環境も少し変ってきた。芳泉町など、かつての武家屋敷の裏に広がる雑木林に生息する昆虫。そして米沢藩の開田事業（堰の開搾）によって分布を広げたらしいということがわかってきたチョウセナカシジミ。今なお一部の地域のトネリコという木だけを住みかとしているこの小さなチョウが歴史の語りべのように、昔を今に伝えて生き続けている。

展示期間は夏休み中なので、子供たちに喜んで学習してもらえるよう、「世界の昆虫」も合わせて展示した。

標本箱の展示には、折たたみができる台を使用し、狭いスペースの有効利用と展示の見易さにも配慮した。

なお、当博物館では、11月１日号より山谷コレクションに関する小冊子である「ファウナ　ウキタム」（ファウナは動物相の意、ウキタムは当地「置賜」地方の語源とされるアイヌ語）を毎月発行している。

会　　期　　平成２年７月20日～８月26日
主　　催　　米沢市立上杉博物館
　　財団法人米沢上杉文化振興財団
入館者数　　一般　3,300人、学生　275人
　　小中学生 1,740人、団体一般 60人
　　計　5,350人



ポ　ス　タ　ー

山谷文仁氏のプロフィール

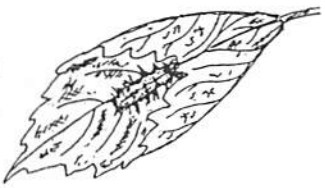
1921年９月８日	青森県西津軽郡森田村下相野に生まれる。農事試験場に勤務していた父が植えた変わった植物やトチ、カエデ、カシワ、シラカバ、コナラ、ニレ、ケヤキ、ブナなどの屋敷林の環境で虫を友として育つ。
1933年	県立木造中学へ進む。我が国初の学術的地方昆虫誌「テレアコ」（津軽の方言で蝶の意味）を会誌にもつ黒石昆虫の会の中心メンバーである兄、山谷文吾氏の影響を受け、津軽昆虫同好会を木造中学校博物教室内に設立（会員40名）、同会の会誌「津軽」のほか、「昆虫世界」「昆虫界」「虫の世界」「関西昆虫雑誌」などの全国誌に報文を送る。
1938年４月	特に興味を持ったオサムシの調査のため、単身、満州へ渡り満州電業㈱へ入社。
1942年１月	駐蒙軍電信第11連隊に入隊し張家口に駐屯、支那大陸を縦断し、台湾、フィリピンに立寄り、セレベス島に上陸。メナドからマカッサルまで４カ月かけて縦断している間、終戦となる。
1946年６月	和歌山県田辺港へ帰り復員（26才）、東北電力㈱入社、青森県岩木川上流一ノ渡発電所、青森支店、1949年トミ子婦人と結婚、仙台本店を経て1968年７月米沢営業所次長。戦前残された一部の標本に加え、仙台本店時代に山谷コレクションの基礎を築く。米沢時代に東南アジアの調査を再開、「山形昆虫同好会」「昆虫と自然」「みちのく虫の会会報」に投稿しながら後進の指導にあたる。1970年名取市に自宅完成。
1975年12月	「米沢の蝶」（米沢豆本の会）出版。
1976年２月	３カ月の仙台本店勤務を経て、東北電力㈱を定年退職し、酒田共同火力へ。オサムシの研究を再開。
1981年11月	「東日本におけるマイマイカブリの調査研究」出版。
1982年５月	「東日本オサムシ研究会」設立、会長就任。
1983年４月	酒田共同火力を退社し、仙台へ戻り東北学院大学に1989年３月まで勤務。「みやぎインセクト」などに投稿。各種昆虫展に出品協力。
1685年９月	オサムシ調査行1000回目となる。
1989年６月	「東日本のオサムシ」（東日本オサムシ研究会）出版。出版を目標にしていた同研究会散会（出版時点で会員数87名）。
1989年８月	山谷コレクションが米沢市に寄贈され、第１回目納入の160箱で、「世界の昆虫標本展」開かれる（ジャスコ米沢店）11月までに寄贈目録730箱の昆虫標本を完納。
1990年７月	山谷コレクションに基づいた「ザ・昆虫展～郷土の小さな命と地球の仲間たち」（九里学園教育センターホール）開催。
1990年７～８月	「山谷文仁コレクション昆虫展－歴史の語りべたち」（上杉博物館）開催。
1990年７月現在	脳梗塞で倒れる（1990年３月）が驚くべき快復力によって仙台の自宅で療養中。

展示資料から

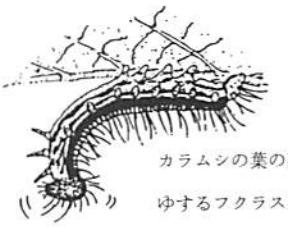
(1)　カラムシをたべる虫

アカタテハとフクラスズメ

今では野生化してしまったカラムシの葉のふちが内側に包み込まれたように丸まった物を見つける事があります。これはアカタテハと言うチョウの幼虫が糸を吐いて葉をはり合わせた巣なのです。又、フクラスズメと言う蛾もカラムシの葉をたべます。この蛾の幼虫は体を激しくゆすって敵を驚かせたりします。



アカタテハの幼虫はカラムシの葉を元の方から巻いて行く。



カラムシの葉の裏で激しく体をゆするフクラスズメの幼虫。

(2)　ウルシにつく虫

マダラアシゾウムシ

ウルシの仲間につくこのゾウムシもウルシによって生活の巾が広くなりました。地味ですが複雑な模様と彫刻のあるきれいなゾウムシです。

敵が近づくと足をちぢめて、ポトリと落ちて死んだふりをするマダラアシゾウムシ。

(5) 第20回日本刀展　－鎌倉時代の備前名刀展－

恒例の日本刀展、本年度のテーマは「鎌倉時代の備前名刀展」である。日本刀の黄金時代と呼ばれる鎌倉時代と、最も多くの優刀を産んでいる備前国という最良の組み合わせで展示することが出来たのは関係各位のお蔭である。日本刀ファンには夢のような組み合わせの催しは、市制100周年と日本刀展20回目を飾るのにふさわしい企画だったと思う。

武家が政権をにぎり、平和が続いた鎌倉時代は他の時代と比べて格段にすぐれた刀が作られた。またこの時代の終り頃に、元寇の襲来があって、外国軍対策として新しい工夫がなされたが、その南北朝時代初期の作例も展示した。

展示方法としては、初心者にも親しんでもらえるよう、図や解説に配慮した。

会　　期	平成２年９月８日～９月30日
主　　催	米沢市立上杉博物館 ㈶米沢上杉文化振興財団
共　　催	㈶日本美術刀剣保存協会米沢支部 山形県教育委員会
後　　援	㈶日本美術刀剣保存協会
入館者数	一般　1,366人、学生　126人 小中生　73人、団体一般　95人 合計　1,660人

ポ　ス　タ　ー

出　品　目　録

＜一文字派＞

重要美術品
刀　無銘　一文字　　長さ　二尺三分　　㈶日本美術刀剣保存協会蔵

重要美術品
太刀　銘　吉平　　長さ　二尺三寸六分　　〃

重要美術品
太刀　銘　吉房　　長さ　二尺三寸一分　　〃

重要美術品
太刀　銘　一備前国吉囲住人□兵衛尉助次　袖の雪（金象嵌）　　〃
延慶二年二月日　　長さ　二尺五寸三分

＜長船派＞

重要美術品
太刀　銘　長船長光　　長さ　二尺四寸三分　　米沢市蔵
文永十一年十月廿五日

重要刀剣
太刀　銘　長光　　長さ　二尺二寸八分　　㈶日本美術刀剣保存協会蔵

重要刀剣
薙刀直し脇指　銘　長光　　長さ　一尺二寸九分　　〃

重要刀剣
太刀　銘　備州長船住景光　　長さ　二尺三寸三分　　〃

重要刀剣
短刀　銘　備州長船住景光　　長さ　八寸五厘　　〃
正仲元年十二月日

重要刀剣
短刀　銘　備州長船元重　　長さ　八寸二分　　〃
正和五年二月日

重要美術品
太刀　銘　備前国長船住真長造　　長さ　二尺五寸一分　　〃
嘉元二年三月日

太刀　銘　備前国長船住景政　　長さ　二尺三寸六分　　〃
暦應三庚辰二月日

重要美術品
太刀　銘　削銘（伝近景）　　長さ　二尺二寸五分　　〃
暦應三年

重要刀剣
短刀　銘　備前長船兼光　　長さ　八寸九分　　〃
暦應三年十月

重要刀剣
太刀　銘　□□長船兼光　　長さ　二尺四寸五厘　　〃

＜畠田派＞

重要美術品
太刀　額銘　守家　　長さ　二尺一寸　　㈶日本美術刀剣保存協会蔵

太刀　銘　備前国長船住右馬允真守造　　長さ　二尺二寸一分　　〃
正應二年八月日

＜直宗派＞

重要美術品
太刀　銘　国宗（附拵　戒杖刀）　　長さ　二尺五寸六分　　上杉神社蔵

重要美術品
太刀　銘　国宗　　長さ　二尺二寸二分　　㈶日本美術刀剣保存協会蔵

重要刀剣
太刀　銘　中原国宗　　長さ　二尺二寸九分　　〃
徳治三年卯月日

＜雲　類＞

刀　折返銘　雲生　　長さ　二尺二寸八分　　〃

＜その他＞

重要美術品
太刀　銘　真則　　長さ　二尺一寸八分　　〃

太刀　銘　吉用　　長さ　二尺四寸二分　　〃

重要刀剣
太刀　銘　恒光　　長さ　二尺四寸七分　　〃

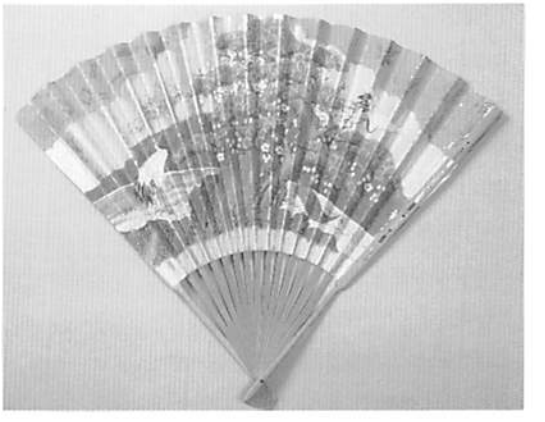
重要刀剣
刀　無銘　為遠　　長さ　二尺三寸七分　　〃

(6) 新収蔵品展

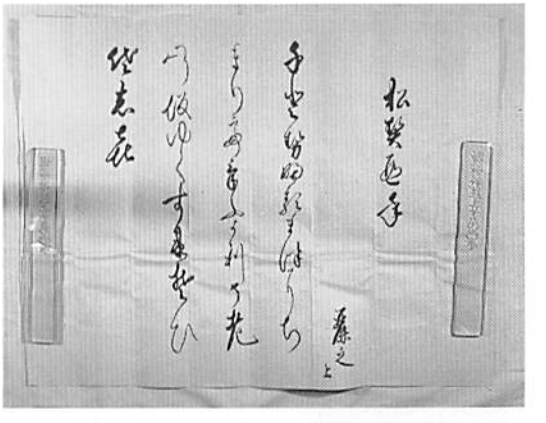
昭和60年度から平成元年度までの米沢市が購入した資料や寄贈、寄託していただいた資料に修理、補修した一部も加え展示した。主なものは、文書類、絵画（軸装）、刀剣などである。

会　　期　平成２年10月10日～11月11日
主　　催　米沢市立上杉博物館
　　財団法人米沢上杉文化振興財団
入館者数　一般　2,356人、学生　100人
　　小中学生 96人、団体一般 397人
　　団体学生 46人、団体小中生 25人
　　会員その他 462人、合計 3,482人

花籠図　息盧（上杉勝賢）筆



仕舞扇　松



麗之（上杉鷹山側室お豊の方）和歌

出　品　目　録

・編年子爵上杉家記	市立米沢図書館蔵
・戸田山城守・松平左近将監・水野和泉守・松平伊賀守宛上杉駿河守（上杉勝周）書状	米沢市立上杉博物館蔵
・上杉勝延御歌	米沢市立上杉博物館蔵
・於喜久（おきく）宛上杉勝承書状	〃
・大方院様（上杉勝承）御筆跡	〃
・微妙院様（上杉勝承継室　喜久）御筆跡	〃
・上杉勝定書漢詩文	〃
・上杉駿河守（上杉勝義）宛 上杉勝定書状	〃
・口宣案（くせんあん）　藤原勝定	〃
・上杉勝定様御筆跡	〃
・駿河守（上杉勝定）宛利（とし）書状	〃
・定興（上杉重定五男 内藤信政）書　漢詩文	〃
・上杉勝義書　漢詩文	〃
・口宣案 藤原勝義	〃
・上杉駿河守（上杉勝義）宛	〃
松野助敬（上杉勝熙五男）書状	〃
・駿河守（上杉勝義）宛初書状	〃
・上杉勝道書　漢詩文	〃
・上杉斉定書	〃
・孝林院様（上杉斉定七女 孝姫）御筆跡	〃
・雄光院様（上杉勝道）御筆跡	〃
・上杉勝賢書　漢詩文	〃

・（上杉）勝賢御実名	米沢市立上杉博物館蔵
・上杉勝賢肖像　佐藤福待撮影	〃
・上杉勝賢様御筆跡	〃
・分限帳 上 延享二年	市立米沢図書館蔵
・写真通信世界珍画帖	米沢市立上杉博物館蔵
・竹雀紋檜扇	〃
・仕舞扇　松	〃
・仕舞扇　霞	〃
・祝言曲用鷺扇	〃
・唐物用鷺扇	〃
・素扇　寛友筆　己丑	〃
・素扇　寛友筆	〃
・扇子　和亭筆	〃
・上杉勝賢御召生徒服	〃
・黒紹羽織	〃
・子供用袴	〃
・子供用小袖	〃
・竹雀文狩衣	〃
・華族名簿　明治37年5月11日調	〃
・花籠図　息盧（上杉勝賢）筆	〃
・花木図　桃園筆	〃
・竹林図　桃園筆	〃
・四季花木図　寛友筆	〃
・柳下美人図　聞潮桜田熊洞筆	〃
・名乗読之覚	〃
・勝周　勝承　勝定印影	〃
・（上杉）勝義印影	〃

子　供　用　小　袖

四季花木図　寛友筆

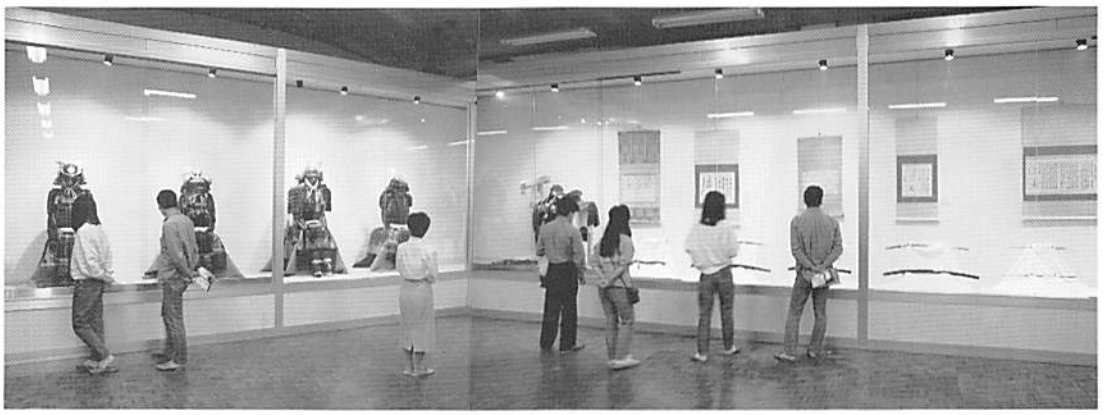
(7) 館蔵品展

当館では、冬期間は特別展の催しはなく、館蔵品の展示を行っている。展示期間や展示テーマを特に定めてはいないが、入館者に観光客は多く、観光客が上杉博物館に求めるものは、上杉家にまつわるものであるため、武具甲冑中心にならざるを得ない。しかし当館は展示スペースが狭く、特別展によっては全館使用もあるので、冬期間を利用して、出来る限り、資料を公開するよう勤めている。

展示資料について、理解を深めていただくために、B５版の「解説シート」を置いている。甲冑シリーズ（甲冑の変遷、甲冑部分の名称）、郷土作家シリーズ（下条桂谷、椿貞雄、土田文雄、我妻碧宇）などがあり、自由に持ち帰る式のものである。

12月16日から平成３年２月20日までの間、館内改修工事のための休館。

期　　間　平成２年11月15日～12月15日
　　平成３年２月21日～３月31日
主　　催　米沢市立上杉博物館
　　財団法人　米沢上杉文化振興財団
入館者数　一般　2,680人、学生　322人
　　小中生　297人、団体一般　888人
　　団体小中生 50人、合計 4,237人



収　集

平成２年度受入資料

・民具・工芸品　８点一括購入

１．火事兜

２．捕物装束（鎖帷子）一式４点

３．捕物道具　　３点

突く棒

刺し又

袖搦(がら)み

４．火縄短筒

・書籍　２点購入

１．「上杉鷹山筆」一幅

２．「秋月種樹筆」一幅

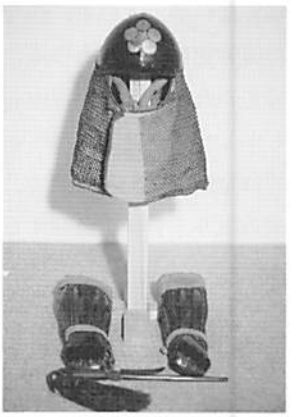
・絵画　３点寄贈

１．「清流」　窪島紫陽画　六曲屏風

２．「水辺」　窪島紫陽画

３．「風景」　窪島紫陽画

捕物装束（鎖帷子）

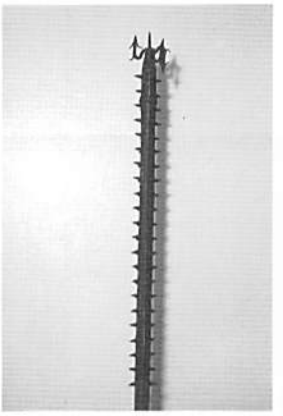


火　事　兜

火　縄　短　筒

突く棒　捕物道具

袖搦み　捕物道具

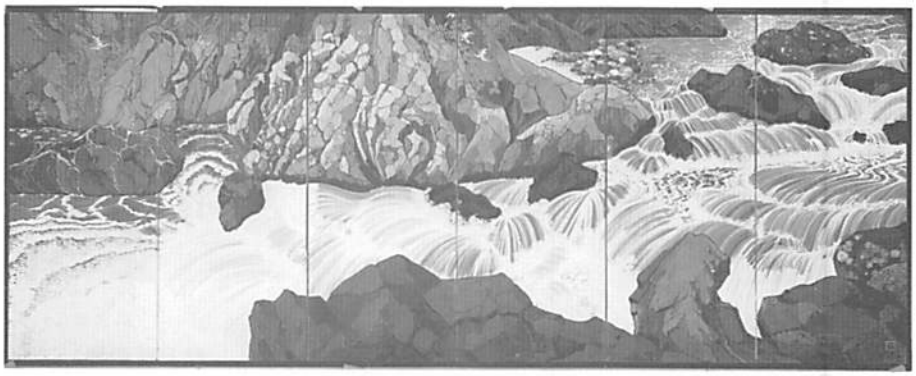


秋月種樹筆

刺し又　捕物道具 秋月種樹筆

上　杉　鷹　山　筆

「清流」　窪島紫陽画　六曲屏風



123cm×300cm

「水辺」窪島紫陽画　日本画

115cm×72cm

「風景」　窪島紫陽画　油絵

65cm×90cm

収蔵資料件数

現在本館では収蔵資料の点検・確認を行っており、近年中に収蔵資料目録を刊行する予定であるが、ここでは1991年3月31日までに確認した収蔵資料件数を記載する。

大分類	中分類	件数	
書跡			138
絵画			273
美術工芸品	陶磁器	45	
	土人形	66	
	彫刻	12	
	その他	19	142
武具類			59
民具類	衣装	62	
	看板・棟札類	21	
	貨幣	13	
	その他	41	137
文献	個別文書	49	
	嶋津文書	6	
	宇津江文書	15	
	杉原家文書	1,201	
	上杉孝久氏寄贈文書	200	1,471
写真			8
歴代市長・議長肖像			32
自然科学	動物	93	
	その他	1	94
		計	2,354

組織・名簿

米沢市立上杉博物館協議会委員

（平成２年７月１日～平成４年６月30日）　（平成３年４月１日現在）

氏　名	役　職　等	備　考
上杉季雄	米沢市小学校校長代表	（市立興譲小学校校長）
鈴木　允	米沢市中学校校長代表	（市立第四中学校校長）
曽根伸良	米沢市高等学校校長会代表	（県立米沢興譲館高校校長）
吉野正八	米沢市社会教育委員	
栗林一雪	㈶米沢上杉文化振興財団副理事長	（副委員長）
石栗正人	市文化財保護委員会委員長	
中川　勝	学識経験者	（市議会）文教厚生常任委員会委員長
上杉虎雄	〃	
大峡　孟	〃	委員長
菊池伸之	〃	
鈴木　仁	〃	
黒田信介	〃	
太田清柳	〃	
鳥海隼夫	〃	
山村　精	〃	

（根拠法令等）

１．博物館法第21条（博物館協議会）

２．教育委員会が任命

３．米沢市博物館の設置及び管理に関する条例第16条により定数15名、任期は２年

（参考）　委員は、学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験者のある者。

（職　務）　―― 博物館法第20条第２項 ――

博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる。

平成２年度協議会開催

開催日　３月25日

場　所　置賜総合文化センター301研修室

内　容　報告　平成２年度博物館事業について

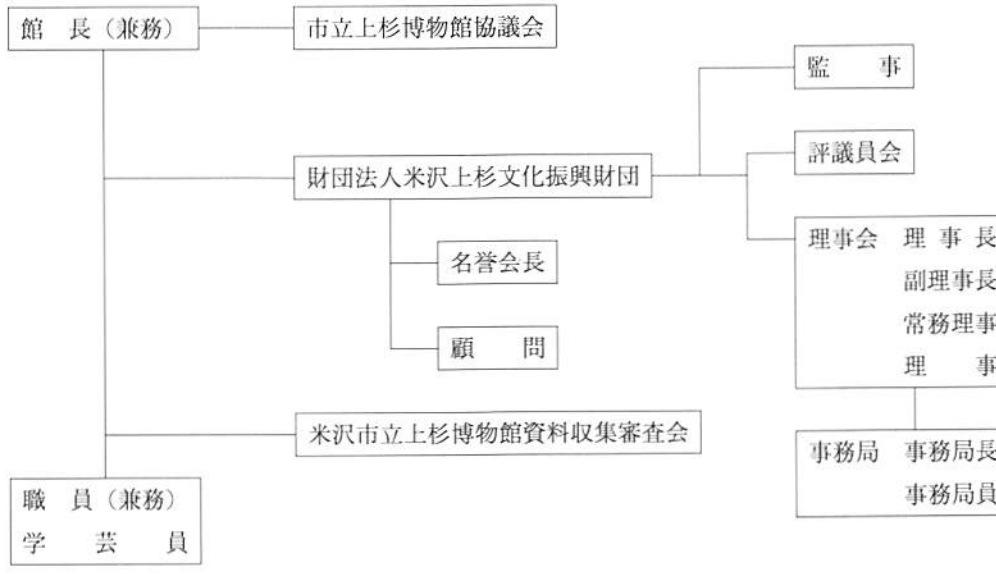
協議　平成３年度博物館事業計画及び予算について

財団法人米沢上杉文化振興財団

本館の管理を委託していた㈳上杉博物館協会が解散し、かわって財団法人米沢上杉文化振興財団が平成２年３月22日設立され、館の管理を財団に委託することとなった。

平成元年、上杉家16代当主隆憲氏より、重要文化財「上杉家文書」・同じく「紙本金地著色洛中洛外図」・県指定文化財「紙本著色厩図」・重要美術品「太刀銘長船長光附打刀拵」の４件が米沢市に寄贈された。当財団はこれを機として設立されたものである。

地域文化の振興を図るため、歴史・文化に関する調査研究及び美術品の公開展示等の事業を実施し、地域社会のより豊かな文化生活に寄与する目的としている。



（平成２年４月現在）

名誉会長	上杉隆憲		
顧問	高橋幸翁		
〃	荒井政二郎		
理事長	種村一郎		
副理事長	青木厚一		
〃	栗林金郎		
常務理事	小口亘		
理事	上杉邦憲	九里茂三	長岡正
	上杉敏子	小嶋彌左衛門	北目二郎
	上杉虎雄	山田武雄	石栗正人
	上杉隆治	椿初枝	大峡孟
	筧統子	黒金義一	横山一郎
	山中絢子	庄司淳	西田澄生
	大乗寺健	相田吉助	石塚忠夫
	松田俊春		
評議員	小泉溥瑛	小林勇	鈴木睦夫
	新田秀次	上泉治	佐藤俊弘
	山岸才一	勝見吾助	千葉常義
	清水澄	手塚春夫	高梨辯治
	井形朝良	塩川勝彦	高森務
	小野栄	太田政子	松野良寅
	赤木伊勢吉	佐藤美保子	荒井信雄
	新屋勇雄	髙橋素子	菊池伸之
	水無瀬正一	須藤紘一	須貝力
監事	佐々木惇	事務局長	長尾和彦
	村岡孝助	事務局員	菊地米子
	安部紀子	〃	村田元生

米沢市立上杉博物館（平成２年度）

館長	小関薫	米沢市教育委員会文化課	課長（兼務）
職員	木村琢美	〃	課長補佐（兼務）
	小林伸一	〃	文化財係長（兼務）
	船山弘行	〃	文化財係（兼務）
	山田隆	〃	文化財係（兼務）
学芸員	角屋由美子	〃	文化課嘱託
〃	今泉ゆり子	〃	文化課嘱託

平成２年度
米沢市立上杉博物館年報 Vol. 3

編集　米沢市立上杉博物館
〒992 山形県米沢市丸の内一丁目４－13
☎（0238）23－7302
発行　米沢市教育委員会
〒992 山形県米沢市金池五丁目２－25
☎（0238）22－5111
平成４年３月30日　発行
印刷　有限会社　山口印刷